令和７年度第３回精華町社会教育委員会議 会議録

日時：令和８年２月１０日（火）午前１０時～
場所：精華町役場６階審議会室

出席委員：
髙鍋房美委員長、村上栄副委員長、尾﨑麻由美委員、堀口紀代美委員、播磨富士子委員、
尾﨑万佐子委員、向井麻美委員、吉田一雄委員、北尾直美委員、 友久庄一委員、木﨑政行委員
欠席委員：
丸山琴羽委員

出席事務職員：
教育長川村智、教育部長松井克浩、生涯学習課長小笠原文紘、
生涯学習担当課長上野泰弘、生涯学習課社会教育係長北川哲哉

傍聴者：１名

内容
１　議事
（１）令和８年度 社会教育指導の重点について
（２）令和８年度 社会教育事業関連予算について
（３）令和８年度からの生涯学習講座について
（４）その他
２　その他
３　開会

《会議内容》
開会
小笠原生涯学習課長より定刻となったため、会議の開会を宣言。委員定数のうち過半数（１１名）の出席があり、精華町社会教育委員会議運営規則第７条第１項の規定に基づき会議が成立している旨を報告し、委員長へ進行を委ねた。

開会挨拶　髙鍋委員長
・自身の体験として、消防出初式への出席を通じ、式典や「来賓」という立場の意味を再認識したと述べた。小学生から「来賓って何？」と問われた際、「みんなを応援してくれる人が座っている席」と答えたエピソードを紹介し、子どもたちが地域や保護者、

教職員に見守られていることを「空気」として実感する場の重要性を強調した。また、デジタル（LINE 等）での確認が増える現代において、目だけでなくその場の空気を感じることの大切さについて所感を述べた。

川村教育長　挨拶
・寒波による路面凍結など季節の話題に触れた後、昨年 12 月に実施された天理市櫟本（いちのもと）小学校区への視察について言及。地域住民が学校支援に深く関わる先進的な取組に感銘を受け、精華町でも取り入れられる部分を模索したいとの意向を示した。
・また、本会議が委員の任期（2 年）の区切りとなることに感謝を述べ、退席した。

議事進行：髙鍋委員長が運営規則第4条に基づき議長となり、議事を運営。

案件（１）令和８年度 社会教育指導の重点について
事務局北川より資料に基づき、令和 7 年度と 8 年度の指導重点の新旧対照表について説明を行った。主な変更点は以下の通り。
・歴史・文化を学ぶ活動の推進：今年度作成した「精華町文化財保存活用地域計画」に基づき推進する旨の文言を追加。
・学校部活動の地域展開：表記を「スポーツや文化」から「文化・スポーツ」へ統一。
・子どもの読書環境整備：第 5 次計画に基づき、具体例として「絵本を通じた親子のふれあいなど」を追加。
・家庭の教育力の向上：ＰＴＡ活動に加え、「地域学校協働本部事業」を明記。ＰＴＡ活動が縮小傾向にある中、保護者同士のネットワークづくりの場として、全校区で実施されている同事業を位置づけた。

【各委員からの意見等】
（村上副委員長）
・「家庭・地域社会の教育力の向上」に関して、ＰＴＡ活動が危機的状況にあり、保護者の姿が見えにくくなっていると指摘。「地域学校協働本部事業」がその代替となるならば、各学校での具体的な活動内容を明確にすべきであり、コーディネーターの負担軽減や人材の厚みを増す必要があるとの意見を述べた。
（事務局北川回答）
・コーディネーターは 3 中学校区に各 1 名配置しており負担が大きい現状がある。広報等を通じて活動への理解と協力を求めていきたい。

（木﨑委員）
天理市櫟本小学校区の視察に触れ、荒れていた学校を地域住民が支援（例：高齢者が掛

け算を聞く活動など）して再生させた事例を挙げた。こうした先進事例を校長会等でも共有し、精華町でも具体的に取り組むべきだと提言した。

（堀口委員）
・来年度４月から一部地域で「登校班」が廃止されるという話について事実確認を求めた。
（友久委員回答）
・地域委員や保護者との協議の結果、地域の実情（距離など）に合わせて登校班の有無を判断することになった。一斉になくなるわけではなく、遠方の地域等は継続する。新１年生への配慮として、４月中は上級生が迎えに行く等の対応を行う。

（髙鍋委員長）
・少子化で教員数も減る中、教員だけで登校見守りを行うのは困難であるとし、予算を確保して見守り専任の有償スタッフ（スクールヘルパー等）を雇用できないかと提案した。
（松井教育部長回答）
・有償雇用の方法は一つの案であるが、町の方針としては、教員の働き方改革を進めつつ、引き続き地域の方々のボランティア協力（スクールヘルパー等）を得ながら継続する方法を模索している。現時点で新たな雇用予算は計上していない。

（尾﨑万佐子委員）
・自身もスクールヘルパーとして活動しており、子どもたちとの触れ合いが高齢者の生きがいや健康維持につながっている実感を述べた。ボランティア活動の良さを認めつつ、ＰＴＡや子供会が縮小する中で、実行委員会形式でイベントを行うなど、保護者たちも柔軟に形を変えて活動している現状を報告した。
（友久委員回答）
ＰＴＡ活動は過渡期にあり、相楽地方全体でも休会する組織が増えていること、活動を地域学校協働活動へシフトしつつある現状を説明した。

案件（２）令和８年度 社会教育事業関連予算について
事務局北川より令和８年度予算の主要事業について説明を行った。
・生涯学習講座：寿大学からのリニューアル版をさらに拡充。
・青少年健全育成事業：夏休み期間中の自習室開設（けいはんな記念公園水景園、むくのきセンター）、障害児週末支援、二十歳の集い等。

・中学校部活動地域展開：令和８年度２学期より、休日の部活動を地域へ移行。文化部（吹奏楽）は民間事業者等、運動部はスポーツ協会等と連携。経済的支援も実施。
・図書館開館25周年リニューアル：カーペット張替え、りんごの棚（特別なニーズのある子向け資料）設置、記念イベント等。
・スポーツ推進：プロスポーツチーム（京都サンガF.C.、京都ハンナリーズ）との連携事業等。
・施設整備：むくのきセンターのリニューアル（空調更新、LED化、Wi-Fi整備等）および打越台防災受援・文化スポーツ施設の整備。

【各委員からの意見等】
（村上副委員長）
・夏季自習室について、むくのきセンターは遠方であり、バスも廃止された中で子どもたちの移動手段や安全確保はどうなるのかと懸念を示した。
（事務局北川回答）
・むくのきはスポーツ利用で児童・生徒が使用されている。既存の図書館自習室の拡張版として、多様な学習場所を提供する試験的なスタートである。

（播磨委員）
・けいはんな記念公園の実施場所について確認し、自転車置き場の確保を要望した。

（堀口委員）
・過去にむくのきセンターで自習室を開放していた際、利用者数がどうだったか確認。
（小笠原課長回答）
・当時は周知不足だった反省がある。今回は学校を通じてしっかりとＰＲを行う予定である。

（播磨委員）
・会議室等のパイプ椅子について、荷物が多い参加者（子連れ等）のために、荷物が置けるカゴや、座席下に荷物が置けるタイプの椅子への更新を要望した。ロマンスシートの利便性を例に挙げ、環境改善を求めた。

（髙鍋委員長）
・トイレの「音姫」設置が節水・経費削減につながった例を挙げ、小さな投資が大きな効果を生むこともあるため、利用者の声を吸い上げてほしいと補足した。

（村上副委員長）
・部活動の地域展開について、競技力の低下を懸念。全国大会を目指すようなレベルの指導が地域移行で維持できるのか、また、熱心な顧問教員がかえって地域指導者として負担を抱え込むのではないかと質問した。
（小笠原課長回答）
・現場の教員も生徒への説明ができず不安を感じており、上部団体（中体連等）の大会規定が変わらない中で、活動主体だけが変わる「チグハグ感」が課題である。教員の兼業兼職は推奨される方向であり、熱心な教員は地域の指導者として活躍してもらう想定である。

（髙鍋委員長）
・部活動の過熱化について言及。大会数が多すぎて基礎練習やルール学習がおろそかになっている現状を指摘し、中学校3年間で主要大会を1つに絞るなど、子どもの健康や基礎体力を重視した見直しが必要ではないかと提言した。
・特に近年の酷暑等の気象条件を考慮すれば、現状の活動スタイルは限界に来ているとの認識を示した。

（播磨委員）
図書館のリニューアル内容について詳細説明を求めた。

（上野図書館長回答）
・開館25周年を機に、傷んだカーペットの張替え（1月の蔵書点検期間に実施）、書架レイアウトの変更、案内表示の改善を行う。
また、スウェーデン発祥の「りんごの棚」（障害や特別なニーズのある子ども向け資料コーナー）を入館してすぐの場所に設置し、新たなイベントも企画する予定である。

案件（３）令和８年度からの生涯学習講座について
事務局北川より年間スケジュール案に基づき、高齢者だけでなく子どもや子育て世代もターゲットにした講座案を説明した。

5月：えほんpicnic（けいはんな記念公園、移動図書館車）。
5月：時期未定：まちスコープ華やぎ観光農園（イチゴ水耕栽培の見学・試食）。
6月：チアダンス教室（京都ハンナリーズと連携）。
8月：エデュテイメント・サイエンスショー（大学教授による科学実験）。
9月：かけっこ教室（小学生向け、昨年好評につき継続）。

【各委員からの意見等】
（尾﨑麻由美委員）
・今年度実施されたドローン教室の状況について質問。
（事務局北川回答）
・今年度は子どもたちの集客に苦戦した。来年度も、学校で必修化されている「プログラミング」要素を前面に出し、エンターテインメント性を高めた内容（ドローン操作＋プログラミング＋防災学習）にリニューアルする予定である。

（北尾委員）
・文化協会の各サークルも高齢化で会員が減少しているため、新しい人が入りやすいよう「体験サークル」や「入門講座」のような機会を設けられないかと提案した。

（事務局北川回答）
・文化協会と連携し、例えば「税の書道展」に向けた書道教室や、オカリナ入門、ヨガ体験など、役場主催の講座として実施することでハードルを下げ、サークル加入への橋渡しを行うコラボレーションを検討したいと回答した。

（村上副委員長）
・資料にある「明治安田生命」との連携内容について質問。

（事務局北川回答）
・NISA や iDeCo など、将来の資産形成に関する「投資入門編」の講座について、専門知識を持つ企業として協力してもらう予定である。

その他・報告
退任委員挨拶 本会議をもって任期満了により退任する委員より挨拶があった。

（北尾委員）
・「場違いではないかと考えていたが、視野が広がり勉強になった。今後は地域活動の場で協力していきたい」と述べた。

（木﨑委員）
・「2 年間、精華町を元気にする方法を考えてきた。特に最後に行った天理市櫟本小学校の視察が印象的であり、あの取組をぜひ精華町でも実現してほしい」と強く要望した。

閉会挨拶・報告　村上副委員長

・来年度以降の社会教育関連事業一覧を参照し、継続委員への参考に供した。

・10 月の全国大会、および京都府が担当する分科会について報告。地域の取組事例として発表できる団体があれば事務局へ連絡してほしいと呼びかけた。

・防災研修について報告。精華中学校区コミュニティで「堺市総合防災センター」へ視察に行き、救命講座、消火訓練、地震体験、煙避難体験などを実施し、非常に有意義であったと紹介した。

・最後に、退任する委員への感謝と、櫟本小学校視察の成果を今後に活かしていきたいとの抱負を述べた。

小笠原生涯学習課長より、委員長の円滑進行を感謝し、会議を閉会。